

前橋国際大生とベトナムなど Z世代狙い「果茶」開発



「共愛果茶」を開発した学生

共愛学園前橋国際大（前橋市）は15日、学生がスーパー大手のベトナム（同）と清涼飲料水メーカーのハルナプロデュース（高崎市）と共同開発した飲料「共愛果茶」の商品発表会を同大で開いた。「Z世代」にターゲットを絞り、マーケティングや試作を重ねて完成させた。17日から全国のベトナム計120店舗で販売し、週売り上げ4万本を目指す。

同飲料はウーロン茶や紅茶などにフルーツや果汁を混ぜた「ティーエード」に分類される。白桃、白ブドウ、グレープフルーツの3種の味を開発した。

プロジェクトは昨夏にスタート。同大の特別教育プログラム「オナーズ」に参加する学生が200を超える組み合わせから、女子大生などZ世代に訴求する味を決定。デザインも学生が作り、上品でシンプル、店頭で目立ちやすいものにした。販売促進のため、店頭ポップや垂れ幕も作成した。

同大4年でプロジェクトリーダーの長坂海穂さん（21）は「自分たちで作ったものが店頭に並び、顧客の手にあるというのはすごい経験。学生のうちにこうした機会をただけてありがたい」と語った。

各種1本（500ミリ）128円。（須永彪月）